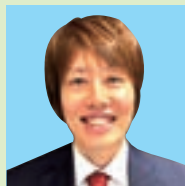


第28回日本在宅ホスピス協会 全国大会 in 四日市

～ 出演者のご紹介 ～

午前の部



10:15～10:45
■ 大会長講演

石賀 文士
いしが在宅ケアクリニック 院長

「在宅看取り文化の再構築のために大切なこと」

かつて日本では、家族が自宅で最期看取るという文化が根付いていました。実際、昭和初期には約8割、昭和50年頃でも約5割の方が住み慣れた自宅に亡くなっていました。しかし、病院医療の急速な普及により、次第に病院での看取りが主流となり、一時は8割以上の方が病院で最期を迎える社会となりました。このような変化の中で、かつて日本の伝統でもあった「在宅での看取り文化」を再構築するために、私達は何を大切にすべきなのか。今大会を通じて皆様とともに、その答えを考える1日にしたいと思います。

午後の部



13:30～14:00
■ 基調講演 1

小笠原 文雄
日本在宅ホスピス協会 会長

「なんとめでたいで臨終」

私は僧侶として65年、医師として52年、約3000人の「人生の最期」に携わってきました。在宅緩和ケアで安らかに・大らかは当たり前、朗らかに生きて、最期は在宅ホスピスで清らかに旅立ててを学びました。スキルを身につけ、「至心信楽」で生き方・死に方・看取りの文化の変容をもたらす在宅医療が日本を救う、ですね。

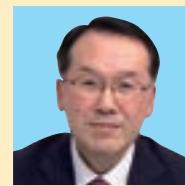


10:45～11:45
■ 特別講演

長尾 和宏
医師

「穏やかな最期って本当か？」

「眠るように逝く」なんて嘘だ、という医師がいまだに多い。私も大昔はそうだった。血だらけ、管だらけで悶絶する最期しか見たことがなかった。でも、今思い返せばその犯人は私だった。あまりにも無知だった自分を恥じ、患者さんに詫言、平穏死10の条件・2025年版」を語りたい。自宅は世界最高の特別室であることをお伝えしたい。



14:00～14:30
■ 基調講演 2

山中 賢治
四日市医師会 会長

「在宅医療の四日市モデルの取り組み」

四日市医師会では様々な取り組みを2007年より開始しました。当時の四日市市の自宅での死亡は、13.6%（全国平均）でしたが、2021年に自宅での死亡は22.1%（全国平均は17.2%）となり在宅医療の四日市モデルとして全国から注目を浴びています。今回、この四日市医師会での取り組みをご紹介します。



11:45～12:15
■ コンサート

結里花
歌手

「三重に生まれ育ち、三重に住み、三重を愛する結里花」

医師として医療に従事しながら、精力的に歌手活動も行っている結里花です。2014年には、熊野古道世界遺産登録10周年記念した楽曲「花火」でCDを全国発売。さらに、2019年には四日市港開港120周年を記念した「四日市Love&Story」をリリース。デビュー10周年の2025年6月には3枚目となる「薬名deサンバ」をリリースし、現在も三重県内のさまざまなイベントに出演しています。当日は、会場にお越しの皆様に、三重県への愛を感じていただける歌をお届けしたいと思います。



14:30～15:00
■ 基調講演 3

大竹 耕平
いしが在宅ケアクリニック 院長

「乳児から百寿者までの在宅医療の実践」 ～文化の構築を目指して～

在宅医療においては、対象となる人を「年齢」や「病気」によって分け隔てをせず、かかりつけ医としてその人自身のみならず、その家族や介護者の伴走者として、包括的かつ継続的に支援を提供することが求められます。本講演では、自身の小児外科医としての経験を生かして、在宅医だからこそ実現できる「分け隔てのない在宅医療」の実践についてお話しいたします。

※敬称略とさせていただきます。

はじめまして NewStaff

チーム ZAITAKU の「新メンバー」を紹介します。

7月



医療秘書 **永友 恵**
ながとも めぐみ

出身地：三重県名張市
好きな食べ物：刺身（サーモン・貝） その他和食全般
休日の過ごし方：家族とドライブ・たくさん寝る
夢：子どもたちの夢を応援する事

最後に一言：医療現場に携わるようになって約3年が経ち、このたび初めて在宅医療の現場でお世話になることになりました。期待と同時に不安もありますが、これまで学んできた知識をさらに深めるとともに、新しい知識の習得にも精一杯取り組み、患者様にこれまで以上に寄り添えるよう努めてまいります。多くの方に笑顔と安心をお届けできるよう、今後も精進していきたいと思っております。



いしが在宅ケアクリニック
リハビリだより

いしが在宅ケアクリニックに訪問リハビリ部門ができて、間もなく3年になろうとしています。現在、PT2名、OT2名の計4名で訪問リハビリを行っています。

訪問リハビリ部門の開設から継続して取り組んでいることの一つに、朝礼での「体操・ストレッチ」があります。内容は数分程度の簡単なもので、リハビリスタッフが中心となり、クリニック全体で毎朝行っています。その朝の体操・ストレッチには、次のような効果があります。

【朝の体操・ストレッチの主な効果】

1 身体が目覚め・血行促進

- 活動前の体はこわばっていることが多く、軽い体操で筋肉や関節をほぐすと血流が良くなり、体が動きやすくなる。
- また冷えやむくみも軽減
- 決まった時間に体操を行うことで、日中の活動リズムが安定する

2 脳機能・集中力の向上

- 脳への血流が増えることで、集中力や判断力が高まる
- 脳内のホルモン分泌を促し、気分が前向きになる

3 ケガ・不調の予防

- 朝のうちに可動域を広げることで、日中の動作がスムーズになり、けが防止・姿勢改善につながる
- 運動不足の人の慢性腰痛・肩こり対策としても推奨されている

以上、朝の体操の効果を、簡単に紹介させていただきました。

当院では、訪問業務で自動車を運転するスタッフも多く、「朝礼での体操・ストレッチ」により体と脳を目覚めさせることは、安全運転においてとても大切だと考えています。

朝の体操は継続することが大切です。簡単な体操でもこれらの効果が得られるので、皆様もぜひ日常に取り入れていただければと思います。

作業療法士 加藤 大

